

いのちの起源 [発生]

理科 Science

人間や動物をはじめ、この世に生を受けたすべての生き物は、永遠に生き続けることはできません。しかし、生き物すべては絶えることなく、常にこの世に存在しています。それは、親から子どもへ、いのちのバトンを受けついでいるからです。それでは、人間や動物の新しいいのちは、どのような形で受けついでいるのでしょうか？ 牧場には、そのことを知るヒントがあります。



人間

乳牛

[おなかの中で育てて産む動物]

哺乳類

誕生までの期間 **280日**

人間に男と女がいるように乳牛にもおすとめすがいます。乳牛のおすのからだですでにできた精子とめすのからだですでにできた卵子が受精して、新しいいのちが発生します。そして、母牛のおなかの中で育ち、おなかの中から生まれ、生まれた後は、ミルクで赤ちゃんを育てます。

[たまごを産んで育つ動物]



にわとり

鳥類

たまごからひよこになるまでの期間 **21日**

にわとりなどの鳥類にもおすとめすがいて受精が行われますが、子どもはたまごの中で育ちます。成長しためすどりは、からだの中でできたたまごを産み、それを抱きながら温め、21日後に、たまごからヒナがかえります。



かえる

両生類

たまごからカエルになるまでの期間 **90日**

かえるの場合も、精子と卵がそれぞれおすとめすのからだの中で作られます。水中でめすが産んだたまごに、おすが精子をかけて受精させます。その後、受精卵が細胞分裂をくり返し成長し、おたまじゃくしとして誕生。後ろと前に足が出て、かえるになります。

乳牛のからだの中での変化

乳牛のめす牛は、14～15ヶ月くらいになると、子牛を産めるからだにまで成長するので、酪農家は妊娠しやすい時期を選んで、めす牛の体内に精子を送り込みます。これを人工授精といい、ほとんどの牧場がこの方法を取り入れています。体内で精子と卵子が一緒になった、わずか0.15mm前後（授精後7日目）の受精卵から新しいいのちがはじまります。そして、約280日間、めす牛の体内で少しずつ成長していきます。妊娠5ヶ月で、体長（首から尾までの長さ）30～40cm、体重2～3kgと人間の誕生時とほぼ同じくらいの大きさになり、子牛が誕生するときには、約40kgの体重になります。

